

之處ハシとも許ハシマ謝ハシマ可ハシマ威服ハシマしてそ退ハシマ出ハシマ

ひり山の戦いは、別訴の諸士戦死屬治定最期

翌九日戌射望に御周（カマツチ）が雲ふ様して月を取の法ありとも奇として怖（カモテ）るにへた。豊公舉を袖ふと。即時小三城を降服せしハ實ふ  
怪く驚く威（カミ）也。然かど小秀を内府（ヒドリシムシ）の御前に出密に謀計城納  
むるに。此嚴も幕小過りぬれを。而御陣（ヒヨウジン）あつてあるべきより。方便を  
言狀あつてより。内府備陣へ絶らまく。兵庫元氣頃磨（カミタケノヒメ）の若く急く  
放火して。自軍の威（カミ）えを志めさせられ。其後遠地の衛兵を定むまづ  
城に小神戸信孝。惟徳長秀。峰石頼隆。蒲生氏郷。これられ人ふも  
山右近長房城當副（カマツチ）を次小毛馬代衛復み。小島信雄。織田信包  
銚門一益。武藤宗右衛門を當主。食構小。池田猪之介。同猪九郎

中川瀬を清右衛門作助。刀緒山に稿多。六角。氏家左京亮。安藤平左  
坊。那山小織田信澄。塙門泊番也。加藤にの中將信忠の人物せりて  
當置れ。大矢田に安部仁右衛門。斯の如く護目を令屬らき。猪又  
羽柴の接磨ふ起き。惟任ハ丹波小向ふ。歎を改まし令せあつて  
信長公にハ十二月廿五日以松津を發也。安左衛門帰陣すとくけ。  
當歳も暮て元正七年。羽柴義光も秀吉へ舊文を擲別に下向るし。  
草山の城小笠住にて時く三本城放火かどして歎を乞ひ出さん  
と。乳妨されども別の方ハ忍び出城せざりしが。小三郎長治甚もそ  
や諸將皆集め。軍議をあく。時小侍大將ある。之弟多喜左衛門忠  
徳。進出。小笠一計をもくさん。升も今軍隊數さんとあがま。自軍れど  
を二隊に配。一隊ハ秀吉の魁隊に蒐り。まづ一戦を発し。二隊の